

群馬県学術大会 発表抄録

大会名：群馬県学術大会

分類：口頭発表

タイトル：「新しい監査システムを導入後の成果報告」

発表者：（有）つばさ薬局 長崎省悟

【目的】

調剤過誤は治療効果の損失と健康被害を引き起こす。そのため弊社では過誤発生ゼロを目指しH27から画像が記録できる監査システム（チェックがかかる項目：バーコード・画像および重量）を導入。2年が経過し導入店が全9店舗中7店舗となったので、監査システムの有用性を検討するとともに未導入店との比較を実施。

【方法】

調査1)H29/6/1～6/30で監査システム導入店舗7店において監査システムが発見したエラー（交付前インシデントに該当）件数を集計し詳細を分類。調査2)H30/1/29～2/24では導入店舗7店と未導入店舗2店で交付前インシデントの件数を集計し詳細を分類。同時に交付後インシデントの件数も集計し事例を調査。調査3)これらの結果を踏まえ社内の薬剤師に監査システムの利用に関してアンケートを実施。

【結果】

調査 1) の結果、監査システムが発見したエラー件数は全 76 件。うち、規格違い：34.1%、数量違い：32.9%、メーカー違い：17.7% の順で発見。調査 2) の結果、交付前インシデントが全 78 件。交付後インシデントは全 8 件(うち監査システム未導入店で 6 件)。発生した交付後インシデント内容で、監査システムの導入により防げる可能性のあるものが 90%以上を占めた。また監査システム導入店では画像が残せるため投薬後インシデントへの対応が未導入店舗より迅速・正確に行なえる印象を受けた。調査 3) 薬剤師へのアンケートも監査システムに対して肯定的な意見が多くみられた。

【考察】

今回の調結果から、監査システムの導入は有用であると判断。その一方で、監査システムを使用するにあたっていくつかの課題も発覚。今後それらを精査し入力・調剤時のインシデント対策と監査システムの運用を連動させることで過誤発生ゼロへさらに向うことが出来ると考えられる。